



JAMCA ニュース

No.103

2019年10月1日

発行
協会事務局

編集事務局

全国自動車大学校・整備専門学校協会
〒160-0015 東京都新宿区大塚町31
グイップ新宿御苑 ☎03-3356-7066
〒125-0002 東京都葛飾区西亀有3-28-3
☎03-3601-2535 FAX 03-3601-2988
ホームページアドレス <http://www.jamca.jp/>

自動車整備士不足とその対応を考える

専門学校 神奈川総合大学校 理事長
全国自動車大学校・整備専門学校協会 理事

鈴木 朝子



平成30年度の一級整備士登録試験のJAMCAの合格率は、約85%と前年に比べ大幅に向上し、嬉しい結果となりました。これは学生の努力はもちろん一級試験対策委員会をはじめ関係者の精力的な活動の成果です。当校からも合格者を輩出することができました。

整備士不足の原因

近頃の整備専門学校への入学者数の減少と慢性的な整備士不足は、クルマ社会において国の安心・安全に関わる深刻な問題となっております。入学者数の減少は少子化、大学進学率の上昇（2019年の進学率は54%）、クルマ離れ、さらに低賃金・過労働・3Kなどのマイナスイメージなどが影響していると思われます。整備士不足は買い替えサイクルの伸びによる市場保有台数が増加と整備士の数が減少のためなのでしょう。

JASPA発行の平成28年度版「自動車整備士白書」によると、約半数の整備工場で整備士が不足し、うち約1割が経営に影響が出ているようです。

対策

パイの縮小による入学者数の減少は避けられませんが、学生獲得

に向けて整備士業務の魅力、技術習得の面白さなどを産官学一体となりPRし続けることはやはり重要です。またマイナスイメージの払しょくのためには、「百聞は一見に如かず」で生徒を整備工場に引率し、作業環境の改善状況など直接見てもらう機会をつくることも効果が期待できるはずであります。

人手不足の影響を受けて留学生の受け入れ人数は年々増加しています。留学生の評価は高く、卒業後は殆どが整備工場に就職しています。今後も増加傾向が続くことを考慮し、基礎技術や日本語教育などに対し組織的な教育体制の強化が重要となってくると思われます。

新たな外国人材の受入れに関する在留資格「特定技能」が創設されたことに伴い、国交省が今年4月自動車の日常点検整備、定期点検整備及び分解整備を行う外国人を受入れる特定技能1号（在留期間5年、5年間の受入れ見込み数は最大7000人）の運用を開始しています。

一級整備士の不足懸念と対策

現在、カーメーカーが進めている先進技術搭載車両には高度な整備技術が求められており、具体的には各種診断機器等の増加への対

応、導入予定のスキャンツールを活用したOBD（車載式故障診断装置）検査への対応、さらに自動運転車両に対する高度で複雑な整備技術などで、この受け皿として一級整備士が中心的な役割を持つと期待されています。

現状では一級整備士が不足する懸念があり、有能な人材を多く集める必要があります。

対策として指導面の充実はもちろん、奨学金の充実など経済面のサポートや資格手当支給など給与面で優遇するなどの工夫が期待されます。

結言

自動車整備士はクルマの高度化とともに益々重要な役割を期待されます。専門学校はこの様な期待に応えられる学生の指導とさらに国際性、リーダーシップのある学生の育成に取り組んでいくことが求められることでしょう。

CONTENTS

- 2面 自動車検査証の電子化について
- 3面 クルマ大好き！活躍!!女子!卒業生
- 4面・5面 JAMCA 会員校 卒業生のキャリアアップ特集
- 6面・7面 協会トピックス
- 8面 私の教材活用・お知らせ・編集後記